

障がいに対する理解を深めよう 「共に生き、共に支え合う、安心して住みよい あぐい」を目指して

No. 6

(阿久比町障害者計画基本理念)

阿久比町障がい者自立支援協議会権利擁護部会の取り組みとしてこの記事に掲載しています。権利擁護部会では障がいに対する理解啓発と差別解消に取り組んでいます。

障がいの有無に関わらず、誰もが安心して生活できるまちを目指して、障がいのある方たちの日常生活の視点から、わたしたちにできることを考えてみましょう。

今回は、「ヘルプマーク」を利用している方と利用していない方の実際の声を聞きました。

ヘルプマークとは

ヘルプマークは義足や人工関節を使用している、内部障害や難病を抱えているなど、外見から分からなくても支援や配慮を必要としている方が、周囲にそのことを知ってもらうためのマークです。



【ヘルプマークを使用することになったきっかけ】

- ◆ 家族に勧められたからです。最初は「この人病気を持っているんだ」と思われているのではないかと思います、恥ずかしさを感じていましたが、今はその恥ずかしさもなくなりました。
- ◆ 自分が上手く言葉で伝えられないことがあるので、ヘルプマークを見て支援が必要であることを分かってもらいたいと思い、役場へ自分でもらいに行きました。

【ヘルプマークの使用方法】

- ◆ 外出時は常にかばんに付けています。
- ◆ 単独で外出するときに使用しています。緊急連絡先を書いたものをヘルプマークに入れてあります。

【使用してよかったことや嬉しかったこと】

- ◆ 電車やバスで席を譲ってもらったり、コンビニで座っていた時に「大丈夫ですか?」と声をかけてもらったことです。
- ◆ 病院などでも席を譲ってもらえます。身に付けることで安心感があり、困ったときも聞きやすくなりました。

〈ヘルプマークを使用していない理由〉

- 窓口でヘルプマークの説明は受けましたが、もらっていません。自分よりもっと重症な人が持つものと認識していました。災害時にパニックになる可能性があるため、ヘルプマークを持つことを考えてみてもいいかもと思っています。

何かお手伝い
しましょうか。



ヘルプマークを身に付けている人を見かけたら、公共交通機関では席を譲ったり、困っているときには声をかけたりするなどの配慮をお願いします。

ヘルプマークは援助を必要としている方にお配りしています。配布場所は住民福祉課(9番窓口)、保健センターです。お気軽にお申し出ください。

この広報を通じて、障がいのことで知りたいこと、知ってほしいことなどがありましたら、下記までお知らせください。

■ **問い合わせ先** 住民福祉課社会福祉係 ☎(48)1111(内1121・1122) FAX(48)0229
電子メール fukushi@town.agui.lg.jp

